

鈴木明彦¹・圓谷昂史¹：北海道積丹半島への暖流系二枚貝チリボタンの漂着

Akihiko SUZUKI¹ and Takafumi ENYA¹ : Warm-water spondylid bivalve, *Spondylus cruentus* (Lischke), washed ashore on the coast of Shakotan Peninsula, Hokkaido

はじめに チリボタン *Spondylus cruentus* (Lischke) は、ウミギク科に属する固着性の二枚貝（速水 2000）で、貝殻が鮮やかな紅色を示すため海岸でも良く目立つ。本種は潮間帯から水深20m位の岩礁に生息し（奥谷・楚山 1987）、日本列島周辺（肥後・後藤 1993）、韓国（Noseworthy et al. 2007）、台湾（Lee and Chao 2004）などに広く分布している。従来チリボタンは、東北北部の秋田県男鹿半島及び岩手県三陸沿岸（肥後・後藤 1993）が北限とされてきたが、2009年には北海道でも出現が確認され、分布の北限が西南北海道の松前半島へと延長された（鈴木・福井 2011）。今回2011年7月に積丹半島積丹町において、新たにチリボタンの打ち上げを確認したので、その概要を報告する。

採集地点 北海道中央部の積丹半島は、日本海に突き出した幅27km、延長40kmの半島である。地形は平野部が少なく急峻で、中心部では積丹岳や余別岳が脊梁をなし、沿岸には複雑な海岸線が連続する。今回チリボタンを採集したのは、積丹町西河の転多海岸である（Fig. 1）。転多海岸（N43°32′，E140°42′）は、ほぼ東西方向に幅15m前後の海浜が連続する外洋性の砂浜海岸で、部分的に岩礁が点在する。

結果 2011年7月、積丹町転多海岸の汀線を100m程度調査し、打ち上げ貝類を採集した。チリボタンは、多数の貝殻と共に波打ち際に漂着していた。随伴した貝類は、ユキノカサ *Acmaea (Niveotectura) pallida*、クボガイ *Chlorostoma lischkei*、ムラサキインコガイ *Septifer virgatus* などで、いずれも岩礁種が卓越していた。

採集されたチリボタンは1個体で、膨らみの弱い左殻である（Fig. 2）。殻表面には多数の放射肋が認められ、その上にはこぶ状の突起がある。殻内面は白色を示す。殻長16.1mm、殻高14.9mmである。

考察 チリボタンの成貝は40～50mm程度（速水 2000）とされているので、転多海岸の打ち上げ貝（殻長16.1mm）は、小型の個体である。また、貝殻の保存状態も良いことから、チリボタンはこの海岸付近の岩礁に生息していたものと推定される。

今回チリボタンに随伴して打ち上げられた貝類を見ると、ユキノカサ、クボガイ、ムラサキインコガイなどで、いずれも岩礁種が卓越していた。上述の貝類はいずれも水深20m以浅に生息する種類であり、このような構成種の特徴は、暴浪時における海底の顕著な攪乱が20m程度

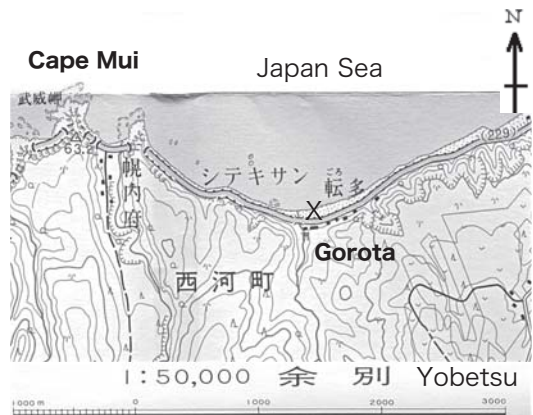
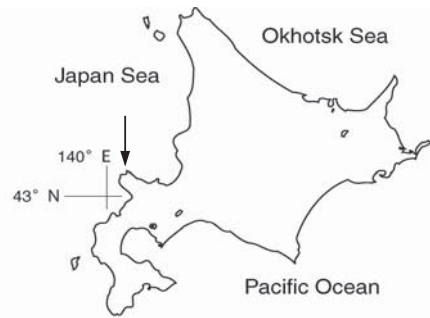


Fig.1 Map showing locality surveyed in Shakotan Peninsula, Hokkaido.

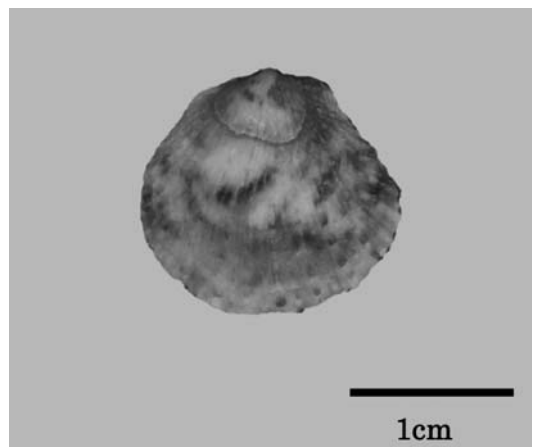


Fig.2 A shell of *Spondylus cruentus* collected at Gorota beach.

よりも浅いことと矛盾しない。

石狩湾沿岸では2005年以降アオイガイをはじめとする暖流系生物の漂着が顕著になり、暖流系貝類であるレイシガイ *Thais bronni* (鈴木 2010) やサクラガイ *Nitidotellina hokkaidoensis* (鈴木・圓谷 2011) の北方への分布拡大が確認されている。このような暖流系貝類の増加は、2005年以降の秋から冬における北部日本海での明らかな海面水温 (SST) の上昇 (1.5~2.0°C程度: 気象庁ホームページ) によるものであろう。これらを考慮すると、チリボタンは2005~2007年にかけての海面水温上昇で、東北北部から松前半島まで分布を拡大し、さらに2010年の顕著な海面水温上昇で、積丹半島まで北上した可能性がある。本報告のチリボタンは、暖流系種が日本海北部の海水温上昇に適応し、その分布をより北方に拡大した一例といえよう (Suzuki 2010)。

Summary: A spondylid bivalve, *Spondylus cruentus* (Lischke), stranded on the coast of Shakotan Peninsula, Hokkaido is examined. *S. cruentus* is also associated with rocky bottom elements such as *Acmaea (Niveotectura) pallida*, *Chlorostoma lischkei* and *Septifer virgatus*. Occurrence of *S. cruentus* is probably related to higher sea surface temperature in the northern Japan Sea since 2005. The stranding record of *S. cruentus* extends to about 43°34' N along the Japan Sea side.

引用文献

- 速水 格 2000. ウミギク科. 奥谷喬司 (編著). 日本近海産貝類図鑑. pp. 916-92, 東海大学出版会, 東京.
- 肥後俊一・後藤芳央 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. 693pp. エル貝類出版局, 八尾.
- 気象庁ホームページ. 海洋の健康診断 (<http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/shindan/>)
- 奥谷喬司・楚山 勇 1987. フィールド図鑑 貝類. 240pp. 東海大学出版会, 東京.
- Lee, S. A. and Chao, S. M. 2004. Shallow-water marine shells from Kenting National Park, Taiwan. *Collection and Research* 17: 33-57.
- Noseworthy, R. G., Lim, N.-R. and Choi, K.-S. 2007. A catalogue of the mollusks of Jeju Island, south Korea. *Korean Journal of Malacology* 23: 65-104.
- 鈴木明彦 2010. 北海道厚田沿岸への暖流系岩礁性貝類レイシガイの漂着. 漂着物学会誌 8: 25-26.
- 鈴木明彦・福井淳一 2011. 北海道松前半島におけるメダカラガイの出現. ちりぼたん (日本貝類学会研究連絡誌), 41: 41-47.
- 鈴木明彦・圓谷昂史 2011. 北海道浜益海岸へのサクラガイの漂着. 漂着物学会誌 9: 29-30.
- Suzuki, A. 2010. Relationships between northward migration of modern warm water mollusks and surface water warming in the northern Japan Sea. 3rd International Palaentological Congress, London, Abstract Volume: 272.

(Received May 24, 2012; accepted June 18, 2012)

¹ 〒002-8502 札幌市北区あいの里5-3-1 北海道教育大学札幌校地学研究室

¹ Department of Earth Science, Sapporo Campus, Hokkaido University of Education, 5-3-1 Ainosato, Sapporo 002-8502, Japan